

(1) 報告事項

ア 令和4年度岩手県立博物館協議会における主な意見・要望とその対応状況

【令和4年度博物館協議会（令和5年1月24日開催）】

主な意見要望等	対応状況等
① 館内のバーチャルツアーの導入について	
<p>館内のバーチャルツアーの導入について令和5年度の実現に向けて取り組むとの説明があったが、<u>実現すると具体的にどのようなことができるのか。</u></p> <p>(星議長)</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>現在、ホームページに館内の案内を静止画で掲載している。グーグルのストリートビューのイメージで館内を進みながら立体的に館内の様子が分かるようなもの、また定点でぐるっと360度が見渡せるよう、ホームページ上でクリックしながら、見学できるような仕組みの実現に向けて検討を進めているところ。全国的にも先進的な博物館では導入しているようなので、当館でも実現できるよう取り組んでいきたい。</p> <p>【取組状況等】</p> <p>ホームページに「岩手県立博物館バーチャルツアー」7月から運用中。ぜひご覧いただきたい。</p>
② インバウンドのお客様向け外国語表示等について	
<p>海外、インバウンドのお客様に対する外国語表示についてはどのような取組になっているか。</p> <p>(星議長)</p> <p>HPを確認したところ、英語のほか、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語で表記されているが、中に入っていくと工事中となっている場合が多い。</p> <p>(菅野委員)</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>ホームページ上では、英語のほか、中国語、簡体字、繁体字などの表記を見れるようにしているが、外国からいらした方に対応できるよう、工夫を凝らしていかなければならないと考えている。</p> <p>【取組状況等】</p> <p>HP外国語ページについて、基本情報は対応している。内部コンテンツの整備について検討中。</p> <p>ポケモン化石博物館は海外からのお客様が相当数いらしており、対応のため展示の多言語解説を用意し、展示室入り口でスマホにQRコードからダウンロードして英・中（簡・繁）韓の解説を見られるようにした。また展示室入口での案内は英語中国語のシートを用意し対応している。</p>

主な意見要望等	対応状況等
<p>今、海外からのお客さんが、結構な数、日本に来ていて、博物館に興味があって必ず御覧になるが、その前にホームページを確認される方が多いと思う。その地域の特徴のあるもの、おもしろい物がヒットして、来館者数が増えるという現象が今までも起こっている。地域の方プラス、<u>観光客、インバウンドの方々に向けてのちょっとした表示とかアプローチがあると、ツイッターとかホームページの効果が上がるのではないか。</u></p> <p>ピンポイント、トピックでいいので、岩手らしいとか日本らしいよねという内容があれば、食いつきがよくなると思われる。</p> <p>(丸山委員)</p> <p>ハロウインターナショナルスクールができて郊外との交流が始まっている。そこで子供たちは日本文化に対する興味・関心が高く、数年後には中・高で900名ぐらいの生徒数になるので、この生徒たちを狙わない手はない。彼らが日本文化を理解するうえで、特にも岩手の成り立ちや様々な文化を理解するためにはこの博物館がまさにぴったりの場所だと思っている。是非、<u>ホームページの充実、さらにはインバウンド向けのパンフレットであるとか、入口に配架されていた刊行物などについて、英語版、外国語版などについて、どのような方針があるのか、次年度以降のことに関わってくると思うので、何か考えがあればお知らせ願う。</u></p> <p>(星議長)</p> <p>今、グーグル翻訳がすごく精度が高くなっているので、キャッチコピーみたいなものだけでいい。あとは日本語で書いてあってもグーグル翻訳でできるので、専門家に頼んで大変な予算かけて英文にするとということまでもなくても、低予算で対応できる方法はいろいろあると思う。</p> <p>(丸山委員)</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>おっしゃるとおりで検討していかなければならないと考えている。ハロウインターナショナルスクールについては、副校長先生から生徒を連れてくる前に自分が勉強したいという連絡をいただいている。</p> <p>ホームページやパンフレット等について、外国から来た方向けの対応をしっかりとしなければならないと考えている。英語で対応できる職員もいるが、資料として作成する場合は、やはり専門家をお願いして作成しなければならないが、その予算の確保が大きな課題と考えているが、方向性としてはご意見いただいたとおりしっかりと対応していかなければならないと考えている。</p> <p>【取組状況等】</p> <p>入館リーフは英・中（簡・繁）・韓の4種類を用意、展示案内は英語版のパンフレットを用意しており、来館者の要望に応じて配布している。</p> <p>館内表示についても基本的な部分は英・中・韓対応を行っている。</p>

主な意見要望等	対応状況等
<p>(ハロウインターナショナルスクールには)今、世界13か国から集まっているが、人数的には180人の生徒のうち、日本人が約70名、中国系が60名位ぐらい、そのほかは英語圏からになる。ただ、授業そのものは、すべて英語で行われており、どの生徒も英語で話せる環境である。</p> <p>(星議長)</p> <p>そのような環境であれば、<u>ここでワークショップをやるとか、その子たちの英語力を使って、岩手県へのアプローチができるのではないか。</u></p> <p>(丸山委員)</p> <p><u>ワークショップもいいが、高校生と一緒に</u> <u>なって国際協力活動的に、手作りマップの作製</u> <u>などを行えばお互いの活性化につながっていくのではないか。</u></p> <p>(細越委員)</p> <p>すでに向こうから問い合わせがあったということで、博物館に来たいと、すでに動き出しているということをお大変嬉しく思う。ハロウ校の中にも日本との交流担当者がいるので、その方が窓口になって、八幡平市内の学校との交流について、調整しながら進める体制ができているし、<u>ハロウ校自体、日本文化を学びたいという姿勢でいるので、このチャンス</u> <u>を逃さないよう前向きに御検討いただければと思う。</u></p> <p>(星議長)</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>文化庁の会議に行くと、今は外国の方の誘客、はっきり言えば外貨を稼ぎたいということをよく言われる。</p> <p>この県立博物館に来るとなると、アクセスそのものも大変で、非常に難しい部分もあるのだが、是非来ていただきたい。そういう意味で当館でも、もう少し足を運んでもらえるような努力をしなければならぬと思う。</p> <p>他の御所野遺跡とか、平泉文化遺産の方はいいと考えている方が多いので、今までも、さらに踏み込んだ対応のノウハウがないというものもあるが、そこの部分が遅れているのかなと思うので、今、皆さんからお話いただいたことを参考にしていかなければならないと考えている。</p>

主な意見要望等	対応状況等
③ 博物館解説員の制服について	
<p> 昨年の会議での発言では、制服だけでなく、靴を心配されたと認識している。ヒールのある靴を履いている方もいると思う。<u>何かあった時、特に雪が積もった時など、避難誘導が大変ではないかと思うので、スニーカーのようなものを用意しておいた方がいいのではないかと思う</u>がいかか。 (山本委員) </p> <p> 制服等について御検討いただき、ありがとうございました。私がお話ししたのは、やはり、避難誘導等で館内はいいが、外を走れるかということがポイントだったので、そこを御理解いただきありがとうございます。 (細越委員) </p>	<p> 【協議会当日の回答】 この件に関する意見をいただいた後、直接、解説員から話を聞いた。「動きやすいか」と聞くと、「大丈夫です」との回答。「じゃあ走れるか」と言ったら「走ってみます」と走っていただいた。 靴はハイヒールを履いている人はいないが、ヒールのない靴、スニーカーでもいいし、高齢者等がウォーキングで履く靴も、色が黒っぽければいいと言っている。ただ、災害等何か起きた時に、基本的に解説員が誘導しなければならないということを踏まえ、館として、地震等が起きた時に、全職員が速やかに対処し、避難誘導に当たれるように、マニュアルの見直し作業も進めてきた。御意見をきっかけに、様々な検討を進めているところであり、貴重な御意見をいただいたと思っている。 それから、制服について、日本博物館協会にも聞いたが、いろいろな考え方があり、ジャンパー着用のところもある。公的なところは、もう少しきちんとした制服を着用した方がいいという意見もあるようだ。予算のからみもあるが、時代に合わせて考えていかなければならない。今のところ、解説員の話し合い等を踏まえて進めているが、変えるべきところがあれば徐々にでも変えていきたいと考えている。 </p>

主な意見要望等	対応状況等
④ 出前講座の取組と博物館の利用促進について	
<p>学校等の教育現場では、時間をとって博物館に連れて行くというのが、大変なところもあるので、その時代の資料等で見たものと似たような物が複製でも現物があるということ、今日の協議会に、<u>学校の先生もいらしている</u>ので、<u>そのようなアイデアなどを活用できるようにすれば、低予算で事業を実施できるのではないか</u>と思う。</p> <p>教育普及事業の県博出前講座は、どこで、いつ、何をされたのか (丸山委員)</p> <p>様々取り組んでいただいているようなので、もう少し資料に記載いただければわかりやすくなると思うので、よろしく願いしたい。 (星議長)</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>今年度の4月から11月末までで12団体ぐらいで実施している。例えば平舘高校、あるいは八幡平市市立柏台小学校、盛岡市立仙北小学校、中学校となどで実施している。内容としては、植物の観察あるいは化石の関係のほか、カワシンジュガイ等の調査指導などである。そのほか講師派遣という形の出前授業や、市町村教育委員会事業の講師等も行なっている。</p> <p>日本博物館協会では、出前講座については「学校を訪問し、その時間を博物館の学芸員がお話するというだけでは駄目」と言っている。単にその教員を楽にしてあげる時間ではない、というのがあって、学校に行って、この授業どうするか、教科書ではこういうふうに教えたけど、じゃあ県内には同じような遺跡があるのか、ないのか、資料があればそれを持って来て欲しい、とか。こういう質問が出たら、こう答えよう等、打合せをしながら進めてほしいというのが本来の目的だと思っている。それであれば時間がかかるので、先生からすると来てもらわなくていいという方も結構いるようだが、全国的にはそのようにしっかりやるところもある。意思疎通をしながらやらなければならないが、そのように進めたい。</p> <p>平舘高校の場合、衣装をつくってもらっているが、ただつくってもらうだけではなく、この衣装は岩手県で、どういう時に着るのか、使うのかというようなことをディスカッションしたりしながら進めている。</p> <p>また、防災について、岩手山が噴火、爆発したらどうなるかということ、平舘高校を含めた小・中・高で、どう対応しなければならないか子どもたちが考えるということも進めたい。</p> <p>日本博物館協会の研究発表会などでは、本当にすごい取組がある。一方的な講演で終わらせないよう、お互いがウィンウィンの形でやっていけるようにしたい。</p>

主な意見要望等	対応状況等
<p>高等学校で、サイエンスの研究指定校になっている学校がある。そういう学校だと多分、組みやすい、連携しやすいのかなと思う。</p> <p>(丸山委員)</p> <p>出前講座が12回の実績があるということは、やり取りをしながら、充実した授業になっていると思うが、阿部委員、学校現場ではいかがか。</p> <p>(星議長)</p> <p>そのような取組ができればいいと思うが、時間をどう確保するかという問題もあり、先生方もどういことができるのかというイメージを持っていないのかなと思う。</p> <p>先ほどの話を聞くと、理想的な連携はよくわかるが、まずは博物館に足を運ぶ、先ほど話題になっていたバーチャル博物館等で博物館を理解しながら、次はこのようなことをやってみよう等、できることから始めていければいいと思う。</p> <p>(阿部委員)</p> <p>高校生に博物館に足を運ばせるためには、ボランティアスタッフをさせてもらうのいいのではないかな。実際に運営に関わるという形で博物館に来てもらう方法もあると思う。このような仕事に興味を持っている高校生はたくさんいると思う。</p> <p>授業単位、学校単位で一斉になると、なかなか難しい。クラス単位ではなく、部活動単位で、自然科学部などが川の生物の観察会を実施した際、講師の派遣をお願いしたことがある。自然科学部的な部活動は県内に結構あるが、物理とか化学ではちょっと難しいので、生物とか地学分野であればいろいろと活用できるのではと思っている。</p> <p>今は自然科学発表会が教育センターなどで開催されているが、博物館を会場にして開催するのも一つの方法ではと思う。</p> <p>部活動の地域移行等の話もあるので、博物館を貸していただいたり、指導をしていただけれ</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>理想を話したが、出前講座に行っても様々な資料を見せると、博物館に行ってみたいという子どもたちも多くいるので、それはそれで非常にいいことだと思う。</p> <p>まず、出前講座を呼んでいただき、それで子どもたちが博物館に来てくれる契機になってくれればいいと思う。体験コーナーには、刀のほか渡辺謙がまとった甲冑もあり、甲冑を着て、刀を持ってすごいよね～と喜んでもらっている。高校生はクラブ活動等で忙しいので難しいのだが、中には学芸員になりたいという子もいるので、子どもたちに是非来ていただき、新たな発見をしてもらいたいと思っている。</p> <p>当館では館園実習といって、将来、学芸員になりたいという大学生を対象に実習生を受け入れている。市内の高校の女子生徒が学芸員志望で、実習の様子をみせてほしいという要望があり、高校生にも参加していただいたこともある。その生徒は、私立大学の推薦入試で、その時の経験を論文にまとめて出したら合格した、ということで、親御さんに喜んでいただいた。そのような事例を交え、校長会にもお願いしている。これまでも当館に来て博物館に興味を持ち、関係する職業に就いた方もけっこういると聞いている。総合博物館のいいところは、子どもたちが何に興味があるか、多様な興味に応えることができるところだと思っている。</p> <p>【取組状況等】</p> <p>岩手県高等学校教育研究会理科部会生物部会が研修の場として当館を利用しており、当館学芸員の協力のもと、部会の総会開催や講演会、実習、展示見学と解説などを実施している（ここ数年で複数回実施）。</p> <p>また、同理科部会、県高等学校文化連盟自然科学専門部による、自然科学部を対象としたセミナーサポート事業の受け入れを行い、研究の進め方等についてワークショップを開催した。</p>

主な意見要望等	対応状況等
<p>ばありがたい。 (上柿委員)</p> <p>部活動の地域移行の関連で、文化部というものが、何かしらどの学校にもあるので、そこにアプローチしていくのも一つの手だと思う。</p> <p>授業でという話になると、総合的な学習の時間の中で求められているものは、博物館での学びは大変近いことではないか。高等学校では、総合的探究の時間というのが教育課程中になっているが、そこにもつながっていくのかなと考える。本校でいうと、「誇り」というキーワードで、盛岡の誇り、岩手の誇り、日本の誇りということで3年間系統立てて学んでいくのだが、この博物館に来ると、岩手の誇りは何かということや歴史や民俗等の資料が様々あるので学ぶことができると思う。ここに来て、初めて知ることが多いわけで、いろいろなリーフレットなどが出ているが、<u>例えば、出前講座について、こんなことができますよ、こんなパッケージがありますよと、その価値が伝われば、授業、見学の時間に入れ込もうかな、併せてキャリア教育の視点で学芸員、博物館その他関連する仕事について、興味を持ってもらう視点もあるのかなと思う。</u>つい先週、キャリア教育講座をやったが、その中に入り込むことができれば、子どもたちにもいろんな発想が出てきて、博物館に行ってみよう、博物館のことをもっと勉強してみようということにつながっていくのかなと、可能性を感じた。</p> <p>(小野寺委員)</p> <p>博物館に足を運んでいただくためには、出前講座にも同じぐらい力を入れていくことが重要だと思うので、頑張ってくださいと期待している。</p> <p>(向井委員)</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>校長、副校長先生をはじめ、生物関係や歴史関係の先生が、県立博物館で会議をし、その後で館内の展示を見てもらうというようなやり方をしている。</p> <p>単に会場を貸すだけではなく、生徒を含め博物館利用につながるような借用をお願いしていきたいと思う。</p> <p>キャリア教育にも対応できるので、宣伝していただき、来ていただければと思う。</p> <p>【取組状況等】</p> <p>全国の博物館で行われている「教員のための博物館の日」事業に参加してイベントを開催。県内小中高支援学校の先生や教員を目指す学生を対象に学芸員による講座実施や展示見学の受け入れを行っている（2016年から継続中）。館と学校の連携、博物館の学習利用方法について紹介した（R5年度は8月4・5日参加者24名）。</p> <p>参加された先生方からは様々な利用方法があることに改めて気づかされたというご感想をいただいております。引き続き周知の努力を行ってまいります。</p>

主な意見要望等	対応状況等
<p>⑦調査研究活動について</p> <p>調査研究テーマについては、人事異動があるところなので、現時点では書けない、選定中ということは伺ったが、ただ、決まった段階でどのような手段で明らかにして公表していくのか、いつも報告でしか分からないし、知らされているのが我々など狭い範囲になっているのではないかと思われる。</p> <p>また、<u>出前講座などをお願いする場合でも、博物館の方から何を教えていただけるのか、優れた学芸員が集まっているのにうまくPRできていない。どんな研究を行っているのか、専門は何なのか、市民講座等に対応できるテーマをお願いできるのかなどが分かりにくいのでは。</u></p> <p>学芸員の方の研究を社会に還元できる体制をわかりやすく示す方がいいと思う。</p> <p>出前講座等を利用していただくためには、私の得意分野はこれですよという部分については、必ずわかるようにした方がいいと思う。博物館自体の宣伝にもなる。</p> <p>これは毎回発言しているが、<u>学会・研究会・他機関での発表、また、研究助成申請についても是非、力をいれて欲しい。</u></p> <p>これについて、博物館の活動事業として、それを支える仕組み、物的な補償なりが必要になってくると思うが、学芸員の皆さんに補助的なことや業務の軽減のほか、学会出張の旅費の予算措置などはどうなっているか。</p> <p>(菅野委員)</p> <p>今、提案のあった、学芸員の方々にどんな相談ができるのか、どんなことが提供できるのかについて、すでに仕組みはあるものか。</p> <p>(星議長)</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>ホームページに各学芸員の自己紹介欄を設け、掲載している。内容は各自記載しているものだが、御指摘いただいたように、専門分野や例えばこのような調査研究に取り組んでいる、業績がある、など、その辺の情報を分かりやすくお伝えできるよう、検討して取り組みたい。</p> <p>出前講座のメニューについては、ホームページで、このような内容のお話しができるということがたどれる、一覧で確認できるようにしているが、もう少し分かりやすく紹介できるように工夫していきたい。</p> <p>教材の貸出しについては、ホームページ上から見れるようになっており、夏休みなどに学校の先生をお招きして、資料を教材としてこういった授業ができますよといったセミナーも随時開催している。皆様からいただいた御意見等を参考にしながら、もう少し充実した内容となるよう工夫していきたい。</p> <p>いろいろとお話いただいたが、どうしても予算的な制約があり、各学芸員の研究に充てる費用も限られた金額となっている。やりたいことはたくさんあるのだが、十分な予算が確保できていないというのが現状である。</p> <p>学芸員の研究予算も本当にわずかで、皆さんに努力していただいている。</p> <p>これまで大学等からの依頼もただで受けてきたが、これからは、有償として文化振興事業団の収入とし、それを財源として、必要な研究に充てるというようなことも考えている。</p> <p>例えば、学芸員を目指す館園実習や文化財取扱講習会などの予算がない事業もあるが、予算がないからやめるという訳にはいかないので、中核館としての役目を果たしていくため、ギリギリのところ職員が一生懸命頑張っている状況だということを理解していただきたい。</p>

主な意見要望等	対応状況等
<p>⑨ その他</p> <p>今日、私は九戸から滝沢経由で来たのだが、最後、この付近の上り坂に来るまで、博物館という看板を見つけることができなかった。博物館に行ってみたいと思った方々が、ここを曲がると博物館ですよという目印、看板があるといと思った。</p> <p>(向井委員)</p> <p>近くにいる方はいいと思うが、遠方から様々な経路で来る方には分かりにくいというのが実感と思うので、御検討いただければと思う。</p> <p>(星議長)</p> <p>盛岡市と一緒にやることはできないか。市内の施設は分かりやすいところにあるのだが、ここだけではなく、一般的に文化施設に関する案内が少ないと思うので、盛岡市に相談してみるのがいいのではないかとと思う。</p> <p>(菅野委員)</p> <p>この件に関しては、久慈総括課長（生涯学習文化財課）のところでも少し動いていただければいいのかなと思う。</p> <p>(星議長)</p>	<p>【協議会当日の回答】</p> <p>すぐ対応することは難しいかもしれないが、検討させていただきたい。</p> <p>【取組状況等】</p> <p>(総務課)</p> <ul style="list-style-type: none"> 岩大囲障改修工事関係で看板撤去（H27） 撤去費 216 千円 自転車道整備工事に伴う看板撤去 移設は財政上困難なため、撤去処分。処分は関連工事の中で実施（H27）
<p>「ぐるっと博物館」みたいなチケットがあって、それを利用すると割引になるような仕組みがあればいいかと、前から思っている。バスに乗って、観光客とか小学生がけっこう修学旅行で来ているが、なかなかここまでは来れていない人が多いので、他の館と連携ができればいいなといつも思っている。ここと、ここを回ったら割引になるとか、スタンプラリーみたいなことが盛岡市と連携してできればいいと思う。</p> <p>(丸山委員)</p> <p>盛岡市では、市の施設、先人記念館、遺跡の学び館や盛岡てがみ館などの共通入館券のチケットはあるが、県と市の共通チケットはないと思う。</p> <p>(石川委員)</p>	<p>【取組状況等】</p> <p>(総務課)</p> <p>他館との共通チケットについては、運営主体が異なるため難しいが、他館との連携については、情報収集しながら検討していきたい。</p>

主な意見要望等	対応状況等
<p>意見であるが、ちょうど1年前に「世界ふしぎ発見」でこの博物館が取り上げられた。スタッフの方にそのテレビの話をしたら、知らないということだった。</p> <p>せっかく番組に県立博物館が放送されたということはすごいチャンスだと思う。来館者と接するスタッフの皆さんには、このような情報を周知しておくことが必要だと思った。</p> <p>今、新収蔵・指定展というテーマ展を行っているが、この展示解説会と日曜講座の時間がだぶって開催されていた。日曜講座は午後3時までだが、展示解説会が2時30分から始まるので、30分だぶっている。事情があるのかもしれないが、利用する側からすると、時間あるいは日にちが重ならないようにしていただけたらと思う。</p> <p>また、岩石園や博物館があるのだが、以前はボランティアの方がいたと思う。春か秋、気候の良いときに植物園、岩石園、重要文化財の建物と合わせて解説会をしていただければと思う。</p> <p>(石川委員)</p>	<p>【取組状況等】</p> <p>報道の予定が確定しているものについては情報共有の仕組みを整えた。当日出勤者が来館者から報道内容に関する質問を受けても答えられるようになっている。</p> <p>解説会と講座の時間重複については令和5年度からは解消するよう調整している。</p> <p>屋外展示について、民俗講座や博物館まつりの際に植物園岩石園探検ツアー等のイベントを通じて詳しく案内する機会を設けている。</p>
<p>ここは総合博物館なので博物館の顔というものがあると思う。縄文の土器とか土偶もそうだと思う。そのような顔があると集客の効果があると思う。</p> <p>館内燻蒸期間中、ここは閉館になる。私は仏像とかに興味を持っていて勉強していたことがあり、乾燥した日を選んで書籍などを日にさらし風を通す曝涼(ばくりょう)というのがあるのだが、1週間でも3日間でも、普段目にするができないものを展示することができれば、集客にもつながるのではないかと思う。これに関しては、予算もほとんどかからないのではと思います、提案させていただく。</p> <p>(細越委員)</p>	<p>【取組状況等】</p> <p>当館の代表的な資料としてマメンキサウルス、土偶、鯨尾兜、イヌワシ等いくつか挙げられ認知度も高いと思われる。それらをモチーフにしたキャラクターの制作も行っており、より親しまれる博物館に向けて引き続きアイデアを頂戴したい。</p> <p>当館の資料くん蒸は収蔵庫、展示室など資料を保管しているスペースを密閉して行うガスくん蒸であり、くん蒸期間中の展示公開は現実的ではないが、ご提案いただいた普段は公開していないものを展示する機会として、令和6年度のテーマ展企画を予定している。</p>